

第6回森林環境教育・木育のあり方検討会 議事概要

日時：令和2年8月4日（火） 13:00～16:00

場所：JA三重ビル本館第5階大会議室

検討事項

みえ森林教育ビジョン（仮称）最終案提示

主な意見

【全体】

- 「森林を活用」等、後半部分を中心に、人間中心の記述になっている。純粋に森林を好きな人、親しみを持つ人を育てるといった方向性も取り入れるべきではないか。
- 森林をフィールドとした生きる力を育むための教育に重心が寄っているが、森林について学ぶ教育という要素も大事にしてほしい。

次代につなぎたい森林とはどういう森林なのかが、ビジョンの中でも分かるようにしてほしい。

【タイトル】

- 「森びと」という表現も捨てがたいように思われる。

【はじめに】

- 「山崩れの防止」機能については、一般の人々に過大評価されている傾向があるので、正しい認識となるよう、表現を工夫してほしい。

【1 私たちが暮らす三重県】

- 1ページの初めの段落中の「地域気候特性」の用語については、この表現で適切か、検証が必要。
- 2ページの「例えば、熊野古道は」の段落の書き方だと、人工林も世界遺産に登録されているようにも読めるので、工夫が必要。
- 2ページの「例えば」で始まる段落は、数字が沢山出てきてやや読みにくい

ので、もう少し表現を整理した方がよい。

- 「豊かな自然は」で始まる段落中、「森林を適切に利用しなかったことにより、災害に苦しんだ・・・」という表現は、災害の原因が全て森林に帰するようにもとられかねないので、工夫されたい。

【2(2) 森林・林業と社会を取り巻く情勢の変化】

- 4ページの「こうした中で」の段落は、なぜ、森林・林業に深くかかわり、守り、育て、活用してきた方以外の方を含める必要があるのかが分かるように記述されたい。
- 4ページの「こうした社会の」の段落中、「社会の動きを踏まえ」とすると、コロナを受けて学習指導要領が改定されたようにも読めるので、時制をそろえる必要がある。
- 同じ段落では、教育の変化が記述されているが、それと森林教育との関連性が記述されていないので、ビジョンとのつながりが分かるよう、関連性について記述されたい。
- 三重県として、今まで取り組んできた森林環境教育・木育から今後取り組んでいくみえ森林教育へと展開していく必要性が分かりにくいので、課題などを記述し展開の必要性を記述するなど、もう少し丁寧に記述する必要がある。

【3(1) みえの森林教育の基本的考え方】

- 「人的資本の向上」という表現からは人を物として扱っている印象を受け、違和感がある。
- 「包括的豊かさ」という概念について、広く一般に浸透している概念でないため、用いるのであれば、もう少し表現をくさきながら丁寧に説明し、うまく溶け込ませる必要がある。
- 森林教育の定義中、「豊かな生を生き抜いていく」とあるが、「生き抜く」という言葉は困難な状況の中を生きていくという言葉なので、違和感がある。
- 森林教育の定義が、生きる力を育む教育に偏っているため、森林について学ぶという要素も明示すべき。

【3(2) 目標とする人物像～みえの森びと～

- 純粹に森林や木に親しみを持つ人というのも人物像に含むべき。

【4(2) みえの森林教育における取組方向】

- 個別の取組について、対象者や方法など、読んだ人がイメージしやすいよう、決まっている範囲で少し説明を加えた方がよいのではないか。

【その他】

- 森林教育にこれから取り組む人にとって取組をイメージしやすいように、三重県の森林に関わる基礎的なデータや、県内の特徴的な取組などをまとめた、資料編をつけるとよいのではないか。

今後、委員意見や関係者意見を踏まえ、秋に向けて成案を作成することで、委員了承。